

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	畠山 学	地域企画課	企画観光振 興班	金野 昌完 佐々木 紳	0186-62- 1251	地元企業人材獲得支援事 業	管内の中小企業は人手不 足感が強まっており、高校 生の地元就職への理解と 関心を高めることにより地 元就職率の向上と人口流 出の抑制を図る。	147,900	直営	①人材獲得スキルアップセミナーの開催 令和元年7月23日 参加企業団体63社 ②企業説明会 ・大館桂桜高校ほか 令和2年2月3日 参加者586名 ・秋田北鷹高校 令和2年2月17日 参加者182名	県	①管内事業 所 ②管内の高 校生	平成31年4月1日	①参加企業から人材獲得 のスキルアップに資する 大変有意義なセミナーと 評価された。 ②アンケート結果による と、高校生の地元就職に 向けて、地元企業の魅力 を伝えることができたと企 業から評価された。また、 自分に興味のない分野で も、説明を聞いて勉強にな る部分がたくさんあったと 生徒から意見があった。	地元就職率の向上、人口 流出の抑制はいずれも喫 緊の課題であり、継続的 な取組が必要である。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
総務企画部	畠山 学	地域企画課	企画観光振 興班	佐々木 紳	0186-62- 1251	中学生向け企業博覧会	中学生の段階から魅力あ る地元企業の情報を提供 することで、若者の地元定 住を促進するとともに、地 元の企業の人材確保に寄 与する。	549,013	直営	①「大館会場」 令和元年6月28日 大館市立中央公民館 参加者586名 ②「北秋田会場」 令和元年6月28日 北秋田市民ふれあいプラザ「コムコム」 参加者252名	県	中学生及び その保護者	平成31年4月1日	参加した児童・生徒から 「将来について考える良い 機会となった」、保護者か らは「地元は素晴らしいこ ろなので、ここで仕事を したいという気持ちをもっ てもらえたと思う」等の感 想が聞かれ、ふるさとへの 愛着意識の醸成に繋 がった。	中学生の職場体験に繋げ るという意味で、今後も開 催する。 保護者にも企業を知って もらう機会と位置づけてい るが、平日開催ということ もあり、参加者の確保が 課題である。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
総務企画部	畠山 学	地域企画課	企画観光振 興班	畠山 ちひ ろ	0186-62- 1251	国際教養大学を活用した 世界遺産(候補)ガイドの 外国語対応サポート事業	2018年7月、本県の伊勢 堂岱遺跡や大湯環状列石 を含む「北海道・北東北の 縄文遺跡群」がユネスコ の世界文化遺産国内推薦 候補に選定されたことを 受け、県内外だけではなく、 海外からの観光客も増 えることが予測される。そ のため、地域の若者に地 域の魅力を認識してもら うと共に、外国人観光客に 遺跡の魅力を英語で伝え ることで、地元に対する誇 りや愛着心を成熟すること を目指す。	637,505	直営	①国際教養大学が行うイングリッシュビレッジ (EV)への参加 令和元年7月30日～8月1日 参加者:中学生18名、高校生15名 計33名 ②外国語(英語)でのガイド・サポート体験 ・令和元年8月2日 スクリプト作成 ・令和元年8月3日 遺跡でのガイド体験 参加者:中学生14名、高校生14名 計28名	県	国際教養大 学 管内中高生	平成31年4月1日	イングリッシュ・ビレッジで 培った英語の会話を、 英語ガイド体験に結びつ けることができ、生徒から のアンケート結果からは、 「5日間も英語を使う貴重 な体験であり、今後も英語 でガイドをしてみたい」等 好評価なコメントを多数得 られた。また、今回参加し た生徒が、イコモスの現地 調査リハーサルで英語で 説明する等、遺跡の英語 対応への効果も見られ た。	令和元(2019)年12月、「北 海道・北東北の縄文遺跡 群」がユネスコ世界文化 遺産の国内推薦に決定 し、令和3(2021)年の登 録・実現に向け、令和2年 イコモスの現地調査も予 定されており、遺跡見学に おいてガイドの外国語対 応(英語)が求められてい るため、今後もサポート する必要がある。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
総務企画部	畠山 学	地域企画課	企画観光振 興班	柴橋 知里	0186-62- 1252	世界遺産登録を目指す秋 田の縄文遺跡群のPR事 業	2018年7月、本県の伊勢 堂岱遺跡や大湯環状列石 を含む「北海道・北東北の 縄文遺跡群」がユネスコ の世界文化遺産国内推薦 候補に選定された。ユネ スコの本登録に向け、地 元の機運を一層盛り上げ るとともに、本県北部地域 を訪れる県内外の観光客 等を対象に、両遺跡を積 極的にPRし、更なる認知 度向上を目指す。	65,670	直営	①秋田の縄文遺跡群PRグッズの作成(鹿角 地域振興局と共同)・配付 JOMONうちわ 2,000枚 ②PRパネルの展示 ・大館能代空港 年3回 ・ぼぼろーど (令和元年7月28日) ③ロールアップバナーの展示 道の駅等5カ所に通年設置	県	観光客	平成31年4月1日	鹿角地域振興局と共同PR することで、大湯環状列石 とセットでPRすることがで きた。また、伊勢堂岱遺跡 ジュニアボランティアガイ ドと合同で、秋田市でPR 活動を実施し、管外の方 に向けても周知することが できた。	令和元(2019)年12月、「北 海道・北東北の縄文遺跡 群」がユネスコ世界文化 遺産の国内推薦に決定 し、今後も継続してPRし、 認知度を高めていく必要 がある。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	畠山 学	地域企画課	企画観光振 興班	金野 昌完	0186-62- 1251	地域防災力強化事業	平常時及び災害時における防災関係機関・ボランティア団体の連携を強化するため、ネットワーク会議を開催する。	140,000	直営	①北秋田地域防災担当課長連絡会議の開催 平成31年4月25日 ②防災機関ボランティア等ネットワーク会議 令和元年11月27日 ③鳥インフルエンザ対応訓練 令和元年10月11日	県	関係機関職 員 自治会	平成31年4月1日	災害発生に備えた対応についての情報交換を行うことにより、災害対策組織の素早い立ち上げと情報収集力の向上に寄与することができた。	自治会を中心とした「自主防災組織」の組織率が低いことから、市村や社会福祉協議会などを通して組織率の向上を図るための啓発活動に努める。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	また、自主防災組織活動の活性化と防災意識の高揚を目的としてリーダー研修を実施する。						令和2年5月20日	鳥インフルエンザ対応訓練については、有事の際の対応力を局内職員に身につけさせることができた。	
総務企画部	畠山 学	地域企画課	企画観光振 興班	柴橋 知里	0186-62- 1251	森吉山を中心とした地域の観光情報発信事業	春山登山を計画する登山客・観光客に向けて、森吉山の登山情報・周辺地域の魅力発信を行う。	500,000	委託	H30年度山と溪谷社とタイアップしたモニターツアー実施した記事を、再度山と溪谷社のオンライン媒体であるヤマケイオンラインに掲載(再掲) 令和元年5月7日～7月12日	山と溪谷社	登山客・観 光客	平成31年4月1日	モニターツアー記事のページビューが11,609とH30年度の約2倍を記録し、Facebookの「いいね数」も約4割増であり、H30年度より多くの読者に閲覧してもらえた。また、読者の約3割が65歳以上であり、また、約6割が男性であることから、森吉山の誘客層と合致するターゲットにPRすることができた。	今後、H30年度に実施したモニターツアーの類似企画を冬季版で実施することで、森吉山の認知度を高めるとともに、冬の周辺観光素材のPRの機会とし、誘客を促進する。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
総務企画部	畠山 学	地域企画課	企画観光振 興班	佐々木 洸	0186-62- 1251	「森吉山二次アクセス運営協議会」事業	森吉山周辺観光に係る二次アクセスの利便性の向上及びPRを行い周辺地域の観光の推進を図る。	200,000	負担金	①森吉山二次アクセス運営協議会の出席(年4回) ②商品造成(森吉山観光バス)及び雑誌・広告への掲載 観光バス販売実績今年度927枚(昨年度841枚)	森吉山二次ア クセス運営協 議会	観光客	平成31年4月1日	雑誌・広告への掲載等により、観光バスの販売実績が前年度比+10.2%増加した。また、森吉山周遊タクシーの乗車場所へ案内標識を設置し、観光客の利便性向上を図った。	今後増加が予想される外国人観光客への対応が必要であり、案内標識などの多言語化を進めていく。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
総務企画部	畠山 学	地域企画課	企画観光振 興班	佐々木 洸	0186-62- 1251	田んぼアートによる景観づくり事業	秋田内陸線の集客力アップを図るため、田んぼアートを設置する。	787,814	直営	内陸線沿線の2会場(北秋田市平里・小淵)に田んぼアートを設置	県	観光客	平成31年4月1日	2会場に田んぼアートを描き、誘客と地域間の交流を図った。内陸線の乗客にアンケートを行ったところ、半数以上が田んぼアートを認識しており、誘客のコンテンツとして有効性が確認できた。	地域施策推進事業として実施してきたが、将来的には地域の受け皿(組織)への移行を想定している。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
総務企画部	畠山 学	地域企画課	企画観光振 興班	柴橋 知里	0186-62- 1251	近隣県等観光誘客促進事業	大館・北秋田地域の観光情報を発信し、交流人口の拡大を図る。	397,359	直営	観光PRイベント等の実施 ①花輪サービスEJ7 令和元年8月4日 ②首都圏エージェント訪問 令和元年8月27日～28日 ③HTB創生マルシェ(札幌市) 令和元年10月18日～20日 ④秋田フェスティバル(盛岡市) 令和元年12月7日	県	観光客、首 都圏・隣県 在住者	平成31年4月1日	管内の観光施設や年間イベントについて、県内外(札幌市・鹿角市・盛岡市・首都圏等)においてPRすることができた。	観光情報の発信方法、場所、時期等について、より効果的な方法を検討していく必要がある。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	畠山 学	地域企画課	企画観光振 興班	土佐 竜也	0186-62- 1251	北鹿地域"ゆぎっこ巡り"ス タンプラリー	北鹿地域の代表的な冬の 祭りを繋げ、観光客に周 遊してもらいイベントを実 施することで、地域内流動 を進め、交流人口の増加 を図る。	209,720	直営	北鹿地域5商工団体エリアの6つのイベント会 場を周遊するスタンプラリーを実施 対象イベント(令和元年度):クリスマスマ ーケット in 小坂 参加者78名(12月14日、12月21 日)、比内とりの市 参加者179名(1月25日～ 26日)、大館アメッコ市 参加者184名(2月8日 ～9日)、もちっこ市 参加者152名(2月8日～9 日)、森吉山樹氷鑑賞 参加者48名(1月11日 ～2月16日)、道の駅かみこあにスノーフェア 参加者75名(2月1日～2日)	県	観光客	平成31年4月1日	スタンプラリーと併せて北 鹿地域の冬イベントの周 知が図られたほか、ラリ ー対象以外のイベントへの 関心や、高齢者の外出促 進などの効果がみられ た。	今年は雪がなく暖冬の影 響か、客足は昨年比で3 割近く減少した。参加し やすさ、遠方客対策、周知 方法など事業の充実に向 けて、各商工会とともに、 スタンプラリーの方向性や 中身については検討して いく必要がある。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
総務企画部	畠山 学	地域企画課	企画観光振 興班	柴橋 知里	0186-62- 1251	「上小阿仁村食農観丸ご と推進協議会」事業	村の持つ食農観の素材を 活用することで、村の活性 化と交流人口の拡大を図 る。	600,000	負担金	①食農観丸ごと推進協議会総会へ出席 令和元年5月14日 ②ご当地グルメ秋まつりの実施 令和元年9月28日～29日 二日間で約7,800人來場	上小阿仁村食 農観丸ごと推 進協議会	県内及び県 外在住者	平成31年4月1日	農家民泊の斡旋や、エゴ マの商品化が進められ た。ご当地グルメ秋まつり では、県内外から約7,800 人の集客があり、16店舗 が出店し、県北地域の食 の魅力を発信できた。	今後は、上小阿仁村の担 当者と意見交換をしなが ら、村主催のイベントへの 人的な協力や情報提供、 広報活動等で協力し、上 小阿仁村のPRに務める。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
鷹巣阿仁福 祉環境部	小松 真吾	企画福祉課	調整・障害 者班	小林 舞	0186-62- 1165	障害者が安心して生活で きる環境づくり事業	外見から援助や配慮が必要 と分からない方を対象 に「ヘルプマーク・カード」 の交付を行っているが、交 付数が伸びず、利活用が 十分進んでいないと思わ れることから、支援や配慮 が必要な方の生活環境の 向上のため、当該制度の 認知度の整備が必要。	49,000	直営	〇リーフレットを作成し、当事者やその家族、 障害サービス事業所職員を対象に制度の普及・ 啓発活動を実施 ①当部主催の研修会や会議の席上での説明 (4回) ②北秋田市産業祭の際にブースを設けてPR (令和元年10月19日 鷹巣体育館) ③当部主催の手話教室開催時での説明(4 回)	県	障害者、障 害サービス 事業所職 員、一般県 民	平成31年4月1日	管内市村での働きかけの 効果もあって、累計交付 件数(マーク60件、カード 53件)が昨年度の件数の 倍近くまで増加した。また 説明会の場でもマークを 見たことがある方もおり、 少しずつではあるが当該 制度の認知度が向上して いるように感じられた。	交付件数は増加傾向にあ るものの、障害者手帳の 交付件数に比べるとまだ まだ少ないため、主管課 (障害福祉課)や管内市村 と連携して引き続き当該 制度の普及に努めていく。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
鷹巣阿仁福 祉環境部	小松 真吾	健康・予防 課	健康・予防 班	大塚 彩子	0186-62- 1166	北秋田発・地域で取り組 む健康づくり	本県では「健康寿命日本 一」を目指しているが、当 管内は県内で最も高齢化 が進んだ地域であり、寝 たきり等の要因となる生 活習慣病の予防は喫緊の 課題である。その予防に は働き盛り世代からの減 塩や野菜摂取等の食生活 の改善が必要であるが、 健康づくりのために時間 を割く余裕が無く、その推進 については不十分な状況 であり、支援が必要。	216,717	直営	地域の食生活改善推進員と連携し以下の事 業を実施。 ①減塩と健康を考える研修会 令和元年8月24日 参加者:51名 ②食生活改善推進員によるモデル事業所訪 問(働き盛り世代の健康づくり教室) 令和元 年10月4日 参加者:新東北メタル(株)社員87 名 ③「北秋田発・健康レシピ」の普及 地元紙(10回)、当部ホームページへのレシピ の掲載、市村イベント等での普及	県	地域住民、 管内企業従 業員等	平成31年4月1日	研修会は満足度が高く、 学びはその後のレシピ考 案や事業所での健康教育 に活かされた。事業所訪 問も評価が高く、食生活 改善の具体的な知識を得 る機会となっている。健康 レシピは新聞、HP、イベ ント等を通して広く普及を 図り、働き盛り世代に情報 提供することが出来た。全 体を通して食生活改善推 進員の意識の向上も見ら れた。	生活習慣病の予防は喫緊 の課題であり、毎日の食 習慣の改善が重要であ る。引き続き働き盛り世 代に向けた望ましい食習慣 の普及を、地域の人材と 共に取り組む必要がある。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
大館福祉環 境部	小松 真吾	環境指導課	環境・食品 衛生班	佐藤 唱	0186-52- 3953	大館地域HACCP導入推 進事業	平成30年6月に食品衛生 法の一部が改正され、国 際標準的な衛生管理手法 として認識されているHA CCPIに沿った衛生管理が 令和3年6月から施行され ることから、地域の食品製 造事業者等が円滑にHA CCPを導入できるよう講 習会等を開催する。	121,200	直営	①食品製造事業者等に対する講習会 ・HACCPテキスト、DVDを用い講習(253名) ・冷蔵庫温度を記録装置を用い温度記録の 仕方を周知 ②HACCPに基づく衛生管理の小冊子を食品 事業者等に配布(100部)	県	食品製造事 業者等	平成31年4月1日	管内食品製造事業者等に 対しテキスト、DVD、小冊 子などを用いHACCPに基 づく衛生管理の方法につ いて周知出来た。	全ての食品製造事業者等 が対象となるため今後も 継続して講習会等による 周知が必要である。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
鷹巣阿仁福 祉環境部	小松 真吾	環境指導課	環境・食品 衛生班	小林 満	0186-62- 1167	動物を通じた「いのち」を 大切にする事業	クマとのふれあいを通じて 子ども達に野生生物の生 態や動物愛護の精神を学 んでもらう。 また、「学習の場」としての 熊牧場の利活用促進を図 る。	188,200	直営	①動物といのちの学習会 開催回数:3回 参加者171名 ②学習会の誘致 管内の小学校へ次年度の事業内容の説明 の実施	県	管内の小 学生	平成31年4月1日	学習会を通じて、動物愛 護精神や管内に生息する 野生生物の生態への理解 が深まったほか、秋田内 陸線を利用することで地 域の実情を理解してもら った。 また学校サイドに「くま 園」を学習の場として活用 できることを再認識して もらうことができた。	今後も学校等の関係機関 と連携し、参加する児童 が理解を深めることができ る学習内容としていく。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
農林部	工藤 輝喜	農業振興普 及課	産地・普及 班	由利 昂大	0186-62- 3950	目指せにんにく産地！北 秋田地区にんにくプロジェ クト	園芸メガ団地等で産地拡 大に取り組んでいるにん にく生産において課題と なっている、良質な種子確 保対策とイモグサレセン チュウの侵入防止対策を 講じ、安定生産を図る。	498,000	直営 一部委託	①にんにく大館在来種のウイルスフリー化及 びイモグサレセンチュウの進入防止対策試験 の実施 (県立大へ委託) ②栽培技術情報の提供等 提供 6回 参加者数 延べ167人 ③栽培実証ほの設置 3課題を3農家と協力して実施	県	農業者	平成31年4月1日	土壌の診断によりイモグ サレセンチュウの陰性を 確認した上で作付けする ことが出来た。栽培技術 情報や選別規格板の提供 で時季に適した技術交流 につながった。栽培実証 ほの成果は基本的な栽培 技術の普及につながっ た。	優良種子の供給が実際に 始動する段階になってい る。地元生産振興協議会 が自律的に安定した種子 供給を行う体制が望まれ る。そのためにセンチュウ 診断方法の指導や供給体 制、販売体制の継続的な 支援による基準等のさら なる平準化が必要。ウイ ルスフリー化した在来種 の農家への還元が今後の 目標である。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		
農林部	工藤 輝喜	農業振興普 及課	担い手・経 営班	白鳥 龍一	0186-62- 3950	若手農業者地域魅力発信 事業	・管内の新規就農者は毎 年20人程度で推移してい る。ほとんどが雇用就農 であるが、自立就農を行 う者もあり、中でも若手の担 い手は地域で活動する上 で同世代の仲間のつな がりをもつ事が難しくな っている。その中で、地域 の若手農業者のつながり を強く、地域農業の振興 につなげる必要がある。	67,000	直営	①地域の若手農業者グループ、農業近代化 ゼミナール向けのTシャツ作成(会員7名分 予備3枚) ②Tシャツを着用し、次のイベントで活動PR ・令和元年7月 ゼミナールフェスティバル ・令和元年8月うめえもんマルシェ ・令和元年10月 上小阿仁村産業祭 ・令和2年2月 農近ゼミ55周年式典 ※2.3月に生産施設視察予定もコロナウイルス 関係により県外渡航不可となり中止。	県	若手農業者	平成31年4月1日	・若手農業者の活動を効 率的にアピールすること ができたほか、同じTシャ ツを着て作業することで一 体感を強く、より団体活 動をしている実感を共有 することができた。 ・活動を通して新規会員 が2名増えた。 ・県のプロジェクト発表 会で1名が入賞し、東北 大会で発表予定。	・若手の担い手減少に伴 い、新規会員の獲得が依 然難しい状況にある。農 外の高校、大学生等に向 けた周知活動が必要と考 えられる。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日							令和2年5月20日		

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
農林部	工藤 輝喜	農業振興普及課	産地・普及班	加賀谷 歩	0186-62-3950	あきたシャボン生産拡大支援事業	あきたシャボンの去勢率向上対策として手順を解説する動画を作成し、生産者の去勢技術の向上を図る。 また、安定的な販路を確立するため、首都圏高級飲食店等への売り込みなど、あきたシャボンのPR活動を行う。	245,788	委託・直営	①動画作成委託 ・令和元年6月18日 委託事業者・実演者との打ち合わせ ・令和元年7月31日 動画の撮影 ・令和2年3月13日 動画納品 ・DVD作成枚数 25枚 配布枚数 7枚 ②PR活動 ・令和2年1月18日 シャボン賞味会 @シャボン・ファン(鎌倉市) 一般参加者21名 県職員2名、会員3名	県	あきたシャボン研究会	平成31年4月1日	・生産者にDVDを配布し、それぞれの技術向上のために活用してもらうことができた。 ・フレンチレストランで開催されたあきたシャボン賞味会では、一般参加者から直接感想や意見を聞くことができ、生産者の意欲向上につながった。	あきたシャボンのブランド化を推進するため、引き続き、生産の安定化対策(飼養技術、去勢技術の向上)に取り組んでいく必要がある。 また、新たな販路を開拓するため、首都圏高級飲食店等へのPRを継続する必要がある。
						平成31年4月1日～令和2年3月31日							令和2年5月20日		
農林部	工藤 輝喜	農業振興普及課	産地・普及班	工藤 芳千	0186-62-3950	目指せりんどう新産地！育成事業	りんどうの新産地を育成するため、栽培農家の技術向上対策や需用に応じた販売対策に取り組んでいく必要がある。	81,970	直営	①栽培研修会(4回) 令和元年4月26日、6月7日、6月14日、7月16日 延べ参加者33名 ②産地見学会 令和元年8月23日 藤里町 参加者2名 ③需要動向調査 令和元年8月29日～30日 大田花き等 参加者1名	県	農業者	平成31年4月1日	研修会等を通して技術習得が進んだ結果、R元年度初出荷者も無事出荷まで行うことができ、R2年度の取組意欲も高い。 R3年にも北秋田市の1法人が新たにりんどう栽培に取り組む予定となっており、栽培意欲も高まっている。	今後とも、既存生産者の栽培管理・病害虫防除指導を重点に、単収の維持・向上に向けた支援を行っていく。
						平成31年4月1日～令和2年3月31日							令和2年5月20日		
農林部	工藤 輝喜	農業振興普及課	担い手・経営班	今野 貴裕	0186-62-3950	アスパラガス100t産地復活プロジェクト	・JAあきた北のアスパラガスは現在96戸、44haであるが、10年前と比較すると、戸数で42%、面積で14%減少している。減少している理由は茎枯病の多発である。 ・茎枯病は、アスパラガスの栽培で最も被害が大きい病害で、多発すると収量が激減するほか、翌年の収量にも影響を与え、営農が困難となる。そのため、茎枯病の対策は喫緊の課題となっている。	175,000	直営	①茎枯病に対する防除試験実施(5～10月) ②ハウス半促成栽培の新規生産者向け栽培マニュアルの作成(配布実績:10部) ③先進地(北海道)視察の実施 令和元年10月17日 参加者2名	県	JAあきた北アスパラ部会	平成31年4月1日	・防除試験の実施により、従来の予防剤と治療剤を組み合わせた体系と予防剤中心の体系で、防除効果に大きな差はないことが示された。 ・大規模露地栽培に取り組んでいる農家を部会員とともに視察し、大規模栽培をしていくためのノウハウや防除技術について学んだ。	・他産地で行われている物理的防除と新しい農業防除体系の有効性を検討していく。 ・JA栽培講習会や研修会、栽培指導活動などを通し、「生産者向け栽培マニュアル」の配布とあわせ、新規生産者の掘り起こしと栽培技術の普及支援を行う。 ・アスパラガス半促成栽培や茎枯病防除に取り組んでいる先進産地を視察し、産地づくりに向けた取組を調査する。
						平成31年4月1日～令和2年3月31日							令和2年5月20日		
建設部	武藤 秀男	企画・建設課	企画監理班	樋渡 晃	0186-62-3111	地元企業人材確保支援事業(建設部)	管内において、建設業の担い手の確保は喫緊の課題である。 社会基盤の整備等を担う建設業への理解と関心を深めてもらうことにより、地元企業への若年者入職の契機とする。	207,600	直営	①建設業現場見学会 ・大館桂桜高校 令和元年10月17日 参加者34名 ・秋田北鷹高校 令和元年10月30日 参加者35名 ②出前説明会 ・秋田北鷹高校 令和2年2月5日 参加者27名 ・大館桂桜高校 令和2年2月13日 参加者29名 ③建設出前講座 ・鷹巣小学校 令和元年7月18・19日 参加者63名 ④広報イベント ・ワクワク・ドキドキけんせつ体験 令和元年9月16日 参加者 約400名	県、北秋田建設業協会	①②管内の技術系高校の生徒 ③小学生 ④小中学生、保護者等	平成31年4月1日	アンケート調査の結果、8割以上の生徒から「将来の進路決定の参考になった」との回答を得ており、地元建設業への理解、関心が高まった。	建設業の担い手確保、地元就職率の向上、人口流出の抑制はいずれも喫緊の課題であり、継続的な取組が必要である。
						平成31年4月1日～令和2年3月31日							令和2年5月20日		